

### <円安とカレンダー>

昨今の円安ペソ高は HANDS の財政に深刻な打撃を与えています。このままの状況では来年度の奨学生減やいくつかのプロジェクト終了を考えざるをえません。2008 年のカレンダーの売り上げは、給食プロジェクト存続のために使われます。ご注文をお待ちしています。(P3, 7)



2007 年 10 月 20 日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933

E-mail: hands-ty@r07.itscom.net

<http://www.jca.apc.org/~hands/>

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

## 「本当にインプリメント “implement” されるのですか？」

ゼネラルサントス空港より車で1時間。途中から急峻な山道を走り、チボリ民族の住民が住むフィタク村に着きます。国際ボランティア貯金寄附金より頂いた配分金で、こことスフォ村に水道を引くことになり、事業の視察をしてきました。とはいっても水源は 11 キロメートルも先の更なる山の中の泉で、歩いて 4 時間以上かかるそうです。水量が豊富で飲用に適した安全な水の泉は、そんなに遠くまでいかないと思つたことに驚きました。

昨年、看護師のジョジョから「乳幼児の罹患・死亡数が多い村がある。原因は水がなく、雨季のたまり水を利用しているため」という話を聞きました。乳幼児にはたまり水を煮沸して与えるよう指導しているそうですが、それでも下痢や皮膚の疾患の患者数は減らないそうです。当会としても「治療より予防を」という考えから、この水道事業を支援することに決めました。

住民集会では、お話しくださったコミュニティリーダーや役員からの「多くの子どもたちが水質の悪さに苦しんでいる、亡くなる子どももいる」「悪い水のせいで病気になる」「お金がなく、医者に行くどころか街に行くこともできない」「バランガイに何度も訴えてきたが水道を作ってくれない」という訴えとともに、「implement」という単語を何度も耳にしました。

“implement”を辞書で引くと「約束を履行する、実行する」となっています。フィタク村とスフォ村の

住民は選挙前だけやってくる候補者たちの「自分に投票してくれれば水道を作るから」という口約束に翻弄され、裏切られてきたのです。その経験からうまい話に慎重になっているのです。

特にスフォ村の住民集会の質疑応答では、次のようなやりとりがありました。



水汲みをする少年。この重労働ももうすぐ終わる

【質問】事業がインプリメントされなかったらどうするのですか？(住民男性)

【回答1】皆さんの協力が必要です。協力がなければ事業は終わりません。(CMIP スタッフ)

【回答2】日本からの助成による事業は、期限通り実行されなければなりません。(CMIP ディレクター・ノノイ神父)

ここで盛大な拍手。そのときは「なぜ拍手？」と不思議な印象を受けたのですが、住民たちの実情を考えれば切実な質問であり、ずっと待っていた答えだったのです。

1 ヶ月後、進行状況の確認に村を再訪しました。こ

の間、ダバオ市で購入した丈夫な水道パイプ 11 キロメートル分が届き、住民たち自身で水源まで運びました。パイプはたいへん重く重労働だったはずですが、しかし実際に資材が届き、事業がインプリメント／実行されることを確信したからでしょうか、住民のリラックスした明るい笑顔を見ることができました。

なお、ここスフォ村では当団体理事の安達医師による巡回診療も実施しました(P2)。(九島)